
平成 26 年

9 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

活力ある新産地づくり

中濃農林 ■ ゆず **先進地視察研修会でモチベーションアップ**

9月24日～25日、かみのほゆず（株）は、ゆず生産者、ゆず加工部、関係機関計16名の参加の下、関東（せきひがし）商工会の事業を活用し、和歌山県の「古座川ゆず平井の里」の先進地視察研修会を実施した。

古座川町平井地区は、人口130人ほどの小さな集落であるが、生産したゆず200トから、ゆず加工品約20アイテムを販売し、年間売上1億円超の実績を誇っている。参加者は、古座川ゆずの栽培方法や加工品開発、会社運営について説明を受け、古座川を目標に上之保でも頑張りたいとの意見が多く聞かれた。

農業普及課では、視察で得られた情報等を参考に、上之保ゆずの産地拡大に向けて、引き続き栽培管理、加工品開発支援を行っていく。



【加工品について情報交換する参加者】

可茂農林 ■ クリ **出荷始まる！**

可茂管内のクリは市場出荷が中心であるが、地元実需者から高いニーズがある。農業普及課では、地元実需者との連携強化、出荷拡大を図るため、クリ生産組織の強化、高品質生産、出荷量の拡大に向け取り組んでいる。

今年は8月下旬から、管内の主要産地（美濃加茂、可児、八百津）でクリの出荷が始まった。8月上旬までの干ばつの影響もありやや小玉傾向であるが、前進気味で順調な出荷となっている。

出荷に先立って、県内実需者と契約栽培に取り組む可児市特選栗部会は9月1日出荷目揃会を、可児市クリ振興会は9月1～4日に地区別の出荷目揃会を開催した。また、八百津町は9月4日に選果選別方法の研修会を開催し、家庭選果の徹底による高品質なクリ出荷に努めている。とくに八百津町では個人が地元菓子屋に直接出荷しているため、出荷品質のバラつきが課題となっていたが、農業普及課が中心となり出荷基準を作成し、高品質出荷に向けて取り組んだ。

クリの出荷は10月上旬まで行われる予定で、県内外の市場や地元菓子屋に出荷される。



【可児市特選栗部会
出荷目揃え会】

下呂農林 ■ スイートコーン **観光光客に地元産スイートコーンをPR**

9月13日、JR東海が開催したイベント「さわやかウォーキング」において、下呂温泉を訪れる観光客に対し、下呂市産スイートコーンのPRを行った。

当日は下呂市スイートコーン研究会の生産者や農林事務所職員が、下呂駅構内で地元産スイートコーンのPR及び約100本の販売を行った。

農業普及課では、次年度の生産販売計画を策定し、更なるPR活動により産地拡大を促進していく。



【JR下呂駅でのPR】

売れる農畜産物づくり

岐阜農林 ■ えだまめ **作業受委託実証試験を実施**

農業普及課は、9月15日、えだまめの出荷量の増加や規模拡大を推進するため、JAぎふの協力の下、曾我屋えだまめ選果場において、脱莢から選別までの作業受委託実証試験を行った。昨年の実証試験で課題として挙げられた選別時間の短縮を図るため、ベルトコンベア式選果を導入し、作業能率の向上と低コストを目指した。この結果、昨年より大幅に選別作業時間を短縮することができた。今後は、実証試験によるデータを積み上げ、選別作業の受委託モデルを提案することとしている。



【作業受委託実証の様子】

揖斐農林 ■ 水稻ハツシモ種子 **優良種子生産に向けほ場審査を実施**

9月上旬と下旬の6日間、大野町で延べ約130名の関係者の協力を得て、「ハツシモ」の採種ほ場32haのほ場審査を実施した。翌年に優良な種子を供給するため、出穂期と糊熟期に事前に指定された採種ほ場に審査員が立ち入り、異品種の混入、種子伝染性の病害、害虫や雑草の発生状況などを厳しく確認した。

特筆する病害虫の発生もなく、生育は順調に進んでおり、今後は、適期収穫及び乾燥調製に向けて栽培指導を継続し優良種子生産を推進していく。



【農産物の安定生産は優良種子があってこそ】

戦略的な流通・販売

恵那農林 ■ クリ **イベントで「ぼろたん」販売開始！～2014ENAみのじのみのり祭にて～**

恵那管内のクリ栽培農家及び支援機関で構成する東美濃ぼろたん研究会（事務局：農業普及課）は、9月28日、秋の味覚を満喫できる地元のイベント「ENAみのじのみのり祭」において、「ぼろたん」のPR販売を実施した。

例年どおり3L以上の特大サイズで、‘大きくて渋皮がポロっとむける’特性を活かした食べやすい形態「焼き栗」として、また、「生栗」としても手に取ってもらえるようレシピ集を付け、併せて販売した。

まだ焼き上がらない、朝早い時間帯に来場された方も「焼き栗を食べるのが楽しみにしていた」と声をかけていただくなど、好評であった。

同研究会の出展は今年で3年目。ぼろたんの特長や‘良さ’を知っている方も来場され、リピーターやファンを増やすよい機会となった。

品種の特長を最大限にPRした結果、販売平均単価は2,500円/kg余りと前年より高くなり、販売に協力した栽培農家の期待も更が大きくなった。

東美濃ぼろたん研究会では、今年、3t以上の出荷量を見込んでおり、JAを通じた地域内外の菓子・料理業者等への生栗販売や、今後開催される秋イベント「中津川ふるさとじまん祭(10/24～26)」、「岐阜県農業フェスティバル(10/25～26)」、「ひがしみの農業祭(11/9)」においての焼き栗・生栗販売などを予定している。



【ぼろたんの焼き栗販売】

多様な担い手の育成・確保

東濃農林 ■ 集落営農 **土岐市曾木町の集落営農設立に向けた取組み**

土岐市曾木町では、近年耕作放棄地が増加し、その対応策の一つとして、本年度より曾木町振興活性化委員会土地有効利用部会にて集落営農組織の設立に向け検討している。

8月に周辺集落営農組織への視察及び集落営農塾に参加し、情報収集を進めてきた。9月25日に開催された部会ではそれらの報告があり、メンバー内で情報共有を図った。併せて、今後の集落営農組織化の進め方について、農業普及課より情報提供した。メンバーの中には、担い手を結集して早期に営農組織を設立したいという意見もあったが、集落ビジョンの検討及び合意形成をしてから、地元民を巻き込んで組織化を図っていききたいと意識も変わってきている。

集落営農の話し合いはまだ始まったばかりであるが、徐々に理解が得られつつある状況であるため、今後も引き続き支援をしていく。



【熱心な検討会の様子】

飛騨農林 ■ 担い手育成 **「飛騨の農業を語る会」を開催**

9月26日、飛騨高山高校と飛騨農林事務所の交流事業である「飛騨の農業を語る会」を開催した。この会は、高校教諭と普及指導員が連携を密にし、地域農業の実態を把握するとともに意見交換することで、農業教育の充実を図ることを目的として毎年開催している。今年は「新規就農者の育成」をテーマに3ヶ所の視察と意見交換を行った。

視察では、最初に（株）寺田農園で、研修生を農業者として育成するための取り組みについて説明を受けた後、続いて飛騨で研修後、3年前に新規就農した五反田景子さんから、飛騨で就農したポイントや困難な体験等について女性ならではの観点から説明を受けた。また、JAひだでは、JAで取り組む担い手育成事業と来年度開設する「JAひだトマト研修施設」の概要について説明を受けた。

視察先では、現場での貴重な話を拝聴するとともに、参加者からは多くの質問が出された。また、意見交換会では、農業高校の現状や担い手育成の悩みなど様々な意見に対して議論され、大変有意義な会となった。



【（株）寺田農園での視察】

農業経営課 ■ 和牛繁殖農家 **繁殖和牛の飼養管理研修会を開催**

9月26日、中濃畜産振興会（会長：尾関健治関市長）とJAめぐみの肉用牛部会（会長：兼山勉）は、和牛繁殖農家など約85名の参加の下、全農岐阜県家畜流通センターにおいて「中濃地域種牛共進会」及び「繁殖和牛の飼養管理研修会」を開催した。

当共進会は繁殖雌牛管理技術の向上を目的としており、飼養管理研修では、農業経営課の農業革新支援専門員が生産効率に直結する雌牛への飼料給与について解りやすく説明を行い、特に今年度から給与農家の増加が見込まれるイネホールクロップサイレージ（イネWCS）の給与の注意点について詳細に解説した。

本共進会の上位入賞牛は、10月に高山市で開催される「第13回岐阜県畜産共進会（種牛の部）」に出場し、平成29年度に宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会に向け育成技術の一層の研鑽を図ってゆく予定である。



【繁殖和牛飼養管理研修会】

魅力ある農村づくり

西濃農林 ■ 集落営農 関ヶ原町山中営農組合意見交換会の開催

9月20日、7月に実施した組合員対象の「山中の農地の将来展望に関するアンケート報告会」を行うとともに、8月22日に行った山中営農組合役員、関ヶ原町担当者など関係者による法人化推進の確認事項について意見交換を行い、「農地を守る」という基本的考えを再確認した。

農業普及課からは、集落営農の形態、メリット、法人化の目的及び地域の生活環境を組合員皆で考えるよう説明した。意見交換会では、地域の農地を守るという思いは出席者全員同じと確認され、年末までに再度、組合員同士で話し合いの場を持つことになった。その場で組合員各自が「山中地区をどうしていったら良いか」の意見を持ち寄ることとなった。



【山中営農組合員の意見交換】

県民みんなで育み農業・農村

郡上農林 ■ 女性農業経営アドバイザー 郡上市で一番多い野菜は何？

郡上地域女性農業経営アドバイザー（会員5名）は、女性農業委員（1名）とともに、9月21日に郡上市大和町で行われた「食の祭典 In ぎふ郡上2014」の食育推進コーナーに出展した。

当日は、郡上食育応援隊とともに、地元農産物を使った試食と、食農うんちくクイズを行った。

試食では、トマトを練り込んだホットケーキにトマトジャムをトッピングしたものと、ダイコンの餡かけを合わせて850食ふるまった。いずれも、素材の味が引き出されており、非常に好評だった。

また、クイズでは会員が経営するトマト、和牛、米などの郡上市の農業に関して出題し、子供からお年寄りまでが真剣に問題に取り組んでいた。

さらに、会場では、アドバイザー会員の活動をパネルでPRした。

農業普及課では、これからも女性の目線で行う食育活動を支援していく。



【試食の風景】